

妊孕性温存について

説明される先生方へ



大阪公立大学医学部附属病院
造血幹細胞移植推進拠点病院

がん治療後に子どもをもつ可能性を残すため、妊孕性温存療法があります。
がん治療を始める前に、患者さまへお話しください。

◆ 裏面に参考資料やWEB情報を紹介しています ◆



▼受診までの流れ

妊孕性温存の希望確認

1

医療者が患者へ説明する際のポイント

- 原疾患治療への影響
- 性腺毒性のリスク程度
- がん治療開始までの時間的猶予
- 将来の妊娠や出産を約束するものではない
- 自費診療となる（助成制度あり）

2

生殖医療施設を検索

- 各都道府県のがん・生殖医療ネットワークより検索
※助成制度を利用する場合は指定医療機関を受診してください
- 相談のみでも受診可

3

受診予約 ※必要書類（紹介状等）をご用意ください

- 治療担当医または患者から連絡
※予約方法、必要書類等は各施設により異なるため
詳しくはお問い合わせまたはホームページをご確認ください

4

温存治療開始

- 生殖医療施設にて、温存療法に向けてのカウンセリング
や意思決定支援が行われます
- 希望があれば温存治療開始となります

▼各都道府県のがん・生殖医療ネットワーク

滋賀

京都

大阪

兵庫

奈良

和歌山



▼参考資料

- 助成制度



- 日本がん・生殖医療学会



- 説明資料



女性向け



男性向け

▼診療情報提供の内容について

※必要書類は施設により指定されている場合があります、各施設のホームページをご確認ください

- 病名告知の有無
- 現病歴、既往歴
- 今後の治療予定
- 性腺毒性のリスク分類
- 治療開始までの時間的猶予
- 現在投与中の薬剤
- 本人の来院可否
- 配偶者やパートナーの存在
- 血液型、凝固系など
- 感染症（HBs，HBc，HCV，TPHA，RPR，HIV）